



令和8年9月26日(土)～12月6日(日)

前期/9月26日(土)～10月11日(日)

歴史画のパトローネージュ～明治の画家を支えた人々～

中期/10月17日(土)～11月8日(日)

生誕150年の画家たち～展覧会を彩った名品とともに～

後期/11月14日(土)～12月6日(日)

海を渡った洋画家たちが見た明治～その画業と交友と～

[主 催] 明治神宮
[協 力] 一般財団法人 明治神宮崇敬会(明治神宮崇敬会会員は無料)
[会 場] 明治神宮ミュージアム

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町1-1

電話:03-3379-5875 公式X @Meiji_Jingu_M

[開館時間] 午前10時～午後4時30分まで(入場は30分前まで)

[入 館 料] 一般:1,000円 高校生以下・団体:900円 ※小学生未満無料

[休 館 日] 木曜日(但し、10月22日(木)は開館)

※前期・中期の終了後、展示替休館がございます

September 26(Sat), 2026 – December 6(Sun), 2026

[1st Period] September 26 (Sat) – October 11 (Sun)

[2nd Period] October 17 (Sat) – November 8 (Sun)

[3rd Period] November 14 (Sat) – December 6 (Sun)

Opening hours/10:00-16:30 (Last admission 16:00)

Closed/Thursdays (except on Oct 22) and During the changeover periods between the 1st, 2nd, and 3rd exhibitions.

Admission/Adults: ¥1000, High school students or younger: ¥900

Groups of 20 or more: ¥900, Preschool children: free



展示会特設ページ

明治神宮外苑創建百年記念 聖徳記念 絵画館の 巨大壁画に せまる

Commemorating the 100th anniversary
of the founding of Meiji Jingu Gaien:

*Exploring the Gigantic Paintings of
the Meiji Memorial Picture Gallery*



明治神宮
ミュージアム
MEIJI
JINGU
MUSEUM

明治神宮ミュージアム
MEIJI JINGU MUSEUM

展覧会概要

明治神宮外苑の中心施設である聖徳記念絵画館。

館内に展示される明治天皇・昭憲皇太后の御事績を描いた80点の巨大壁画は、長い時を経てもなお鮮やかに、近代国家の礎を築いた明治という激動の時代を雄弁に物語っています。その裏には、壁画制作に精魂を込めた画家たちの並々ならぬ努力がありました。

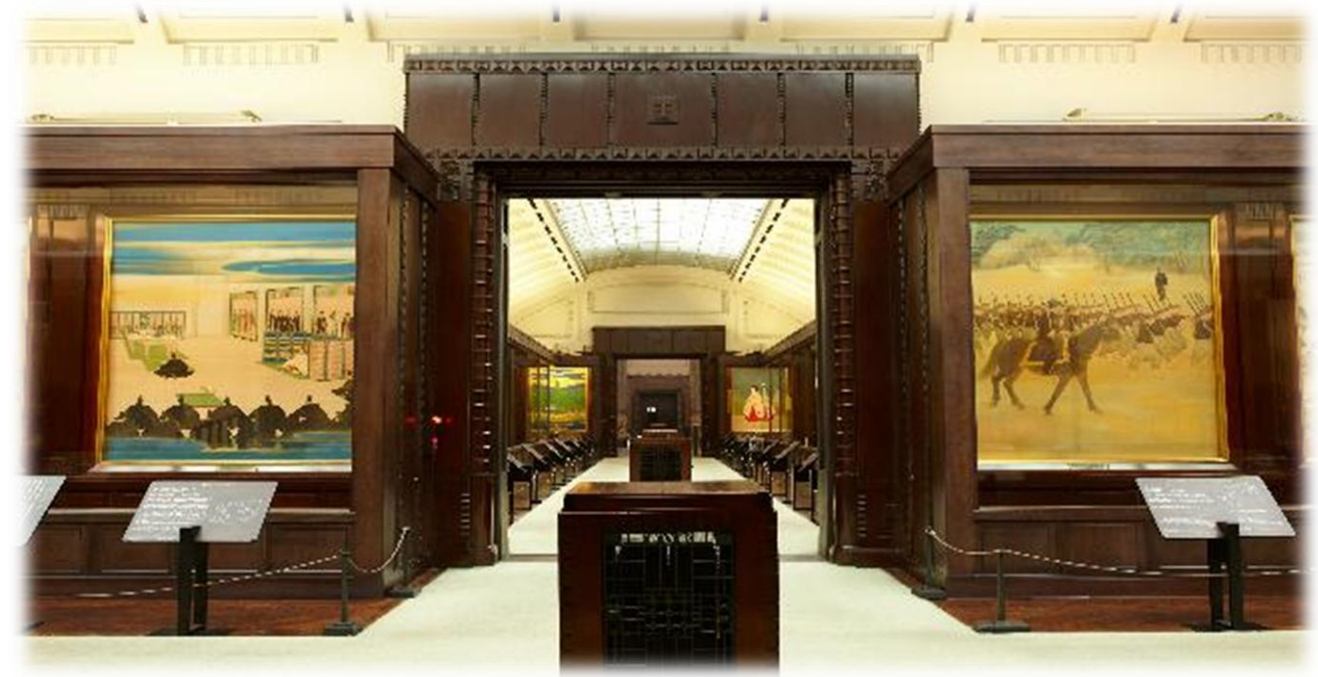
令和8年(2026)10月、外苑は大正15年(1926)の創建から100年を迎えます。

この節目にあたり、歴史の継承を絵画館の壁画に託した先人に思いを致し、このたび明治神宮ミュージアムにて特別展を開催します。

明治を生き、明治を描いた壁画の揮毫者たちに焦点をあて、その画業と志を3期にわたって紹介。

実物の巨大壁画を通期で6点、2点ずつ入れ替えながら展示するほか、前・中・後各期テーマごとに、官展受賞作などの揮毫者の作品を展示し、その多彩な活躍を紹介します。また、画家にゆかりある地域の美術館・博物館の協力を得て、ミュージアムレクチャーやワークショップも実施します。

壁画を通じて現代に至りても全国に結ばれる明治の時代と 息吹を感じていただければ幸いです。



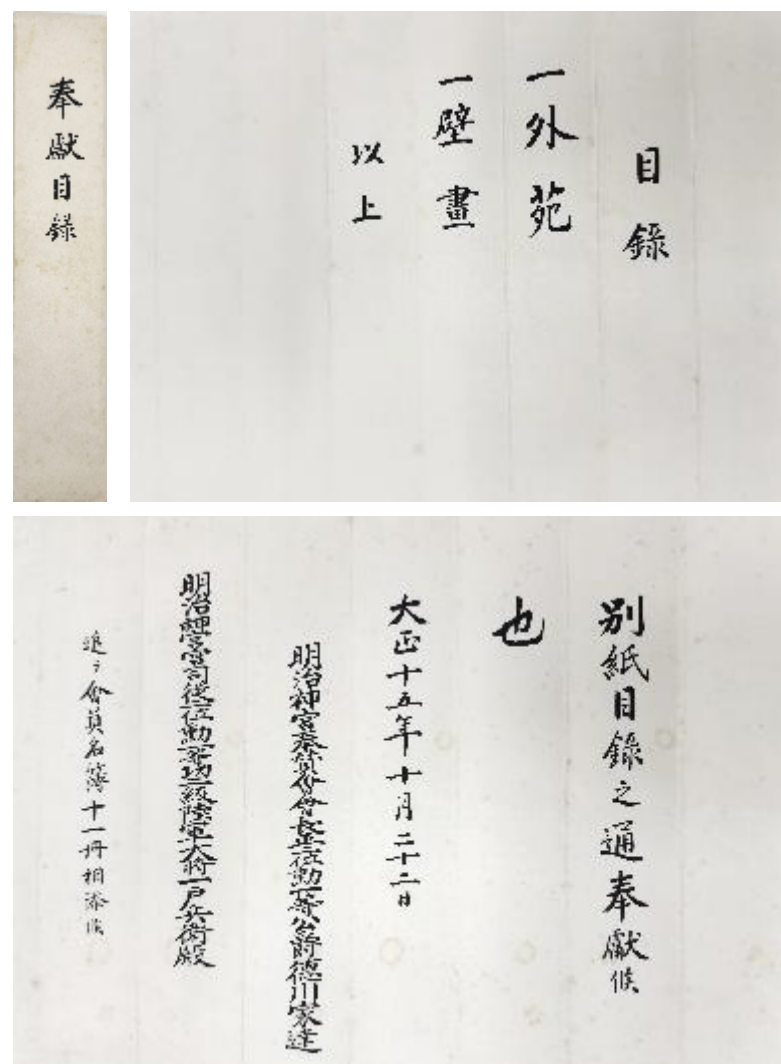
明治神宮外苑 聖徳記念絵画館

絵画館には、明治天皇・昭憲皇太后の御事績を描いた80点の巨大壁画が展示されており、長い時を経てもなお鮮やかに、明治という激動の時代を今日まで伝えてきました。現在は建物の改修工事のため令和9年(2027)まで休館しています。

聖徳記念絵画館の誕生

外苑奉献に関する資料や壁画制作に関する資料を展示します

明治神宮(内苑)は、明治天皇と皇后である昭憲皇太后をお祀りする神社として、大正9年(1920)11月、代々木の地に鎮座しました。内苑が国費で創建されたのに対し、外苑は実業家の渋沢栄一ほか民間有志が立ち上げた明治神宮奉賛会によって人々が集う明治天皇の記念施設として造営されました。その外苑の中心施設として聖徳記念絵画館の建設が計画されると、壁画の画題や画家の選定がはじまります。この計画のために、奉賛会関係者や各画家たちは入念な歴史考証と調査を行いました。《壁画謹製記録草稿》には、そうした調査内容や壁画制作に携わった人々の苦心談が綴られています。



外苑奉献目録 明治神宮蔵



壁画謹製記録草稿 24冊
明治神宮蔵
壁画を描いた画家たちの考証や製作上の苦心談をまとめた記録。



壁画画題資料
明治神宮蔵

明治神宮奉賛会は資料調査や現地視察を行い、内容を壁画画題資料と壁画画題考証図にまとめ、画家たちに提供しました。

前期・中期・後期

各期2点ずつ全6点 聖徳記念絵画館の巨大壁画を展示

明治神宮奉賛会は、洋画家の二世五姓田芳柳へ画題考証図の制作を依頼しました。のちに、二世五姓田は明治天皇紀附図の制作も担いました。
この画題考証図は、参考資料として壁画制作に挑んだ76名の画家たちに配られました。

各画家たちはこの画題考証図を参考に、自身で調査を入念に行い、構図を定めていきました。

下絵(下図)が完成すると、明治神宮奉賛会で下絵持ち寄り会という会議が行われ、適宜修正を加えながら完成させました。

本展覧会では、二世五姓田が描いた画題考証図のほか、壁画の下絵や下図、画家たちが調査を行った際のスケッチなどを展示します。

ごく一部ですが、完成に至るまでのプロセスをご紹介します。



富岡製糸場行啓 荒井寛方



王政復古 島田墨仙



徳川邸行幸 木村武山



岩倉邸行幸 北蓮蔵



憲法発布式 和田英作



日露役奉天戦 鹿子木孟郎

前期 9月26日(土)～10月11日(日)

歴史画のパトロネージュ

～明治の画業を支えた人々～

前期・中期・後各期テーマごとに、壁画制作に挑んだ画家たちの作品を展示。

前期展では、壁画揮毫者と奉納者にスポットを当て、絵画館誕生を様々な形で支えた人物や団体を紹介します。

➤ 壁画《富岡製糸場行啓》を描いた荒井寛方の作品

➤ 壁画《王政復古》を描いた島田墨仙の作品



《海神》

さくら市ミュージアム－荒井寛方記念館－蔵

荒井寛方(1878－1945)は栃木県さくら市ゆかりの画家。
インドのアジャンタ壁画や法隆寺金堂壁画の模写事業を手がけるなど、
仏画において大きな功績を残したことで知られています。
壁画制作にあたっては綿密な調査を行っており、特に、富岡製糸場で
働く女工たちが糸を紡ぐ細かな指先の動きを描くのに苦心したといいます。

◆ 詳しく知りたい方 連続レクチャー10月8日(木)は[こちら](#)
ワークショップ①9月26日(土) ②9月26日(土)・27日(日)は[こちら](#)

《富岡製糸場行啓》
聖徳記念絵画館蔵



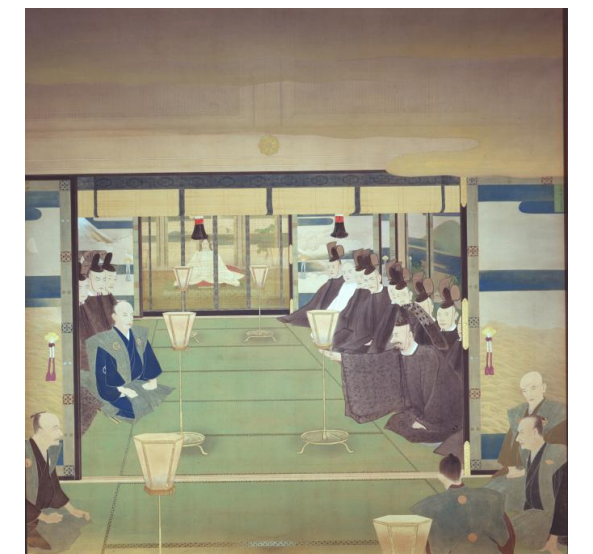
《橋本左内》

福井市立郷土歴史博物館蔵

島田墨仙(1878－1943)は福井県ゆかりの画家。
福井藩士松平春嶽公の書画の指南役であった父・雪谷やアメリカ
の海洋調査船に乗り込み博物資料を手がけた兄・雪湖も有名です。
壁画制作の途中、大病で危篤状態になりますが、奇蹟的に回復し
壁画をみごとに完成させました。「壁画謹製の記」には、制作の傍で
支えてくれた妻・節衣子への感謝が綴られています。

◆ 詳しく知りたい方 連続レクチャー10月8日(木)は[こちら](#)

《王政復古》
聖徳記念絵画館蔵



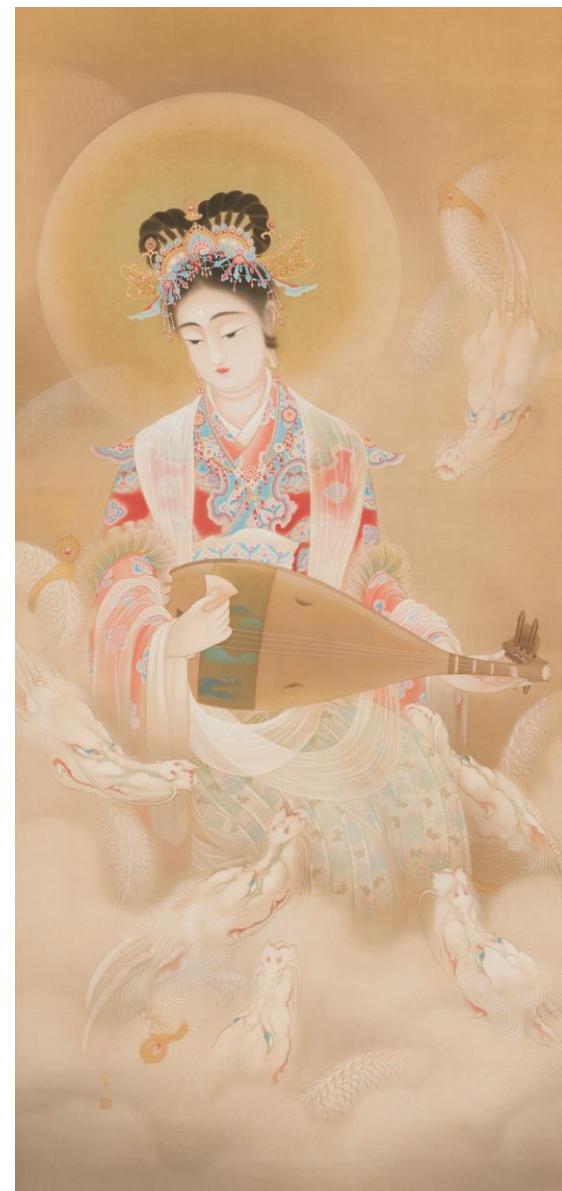
中期 10月17日(土)～11月8日(日)

生誕150年の画家たち

～展覧会を彩った名品とともに～

中期展では、令和8年前後に生誕150年を迎える画家を中心に、展覧会出品作を交え画業を紹介します。

➤ 壁画《徳川邸行幸》を描いた木村武山の作品

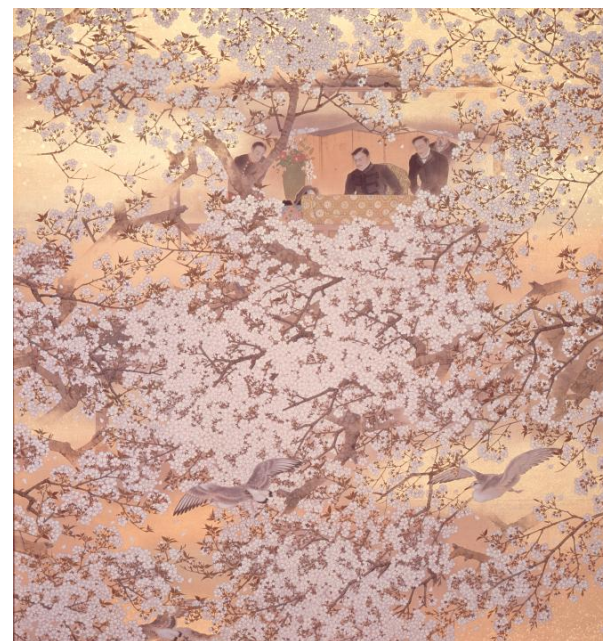


《弁財天》

茨城県近代美術館蔵

木村武山(1876－1942)は茨城県笠間市ゆかりの画家。岡倉天心の薫陶を受け、歴史画や花鳥画を得意とし、晩年には仏画にも取り組んだ事で知られています。隅田川で行われた投網を明治天皇が天覧された場面を描いた壁画《徳川邸行幸》では画面いっぱいに桜花を描いています。また、晩年の作品である《弁財天》では、衣装や装身具に暈繡彩色(うんげんさいしき)という伝統的技法が用いられ、弁財天のまわりに六頭の白龍と、柔らかに漂う雲煙が合わさって、幻想的な世界を表現しています。

◆ 詳しく知りたい方 連続レクチャー10月29日(木)は[こちら](#)
木村武山ゆかりの地を巡る日ツアー11月7日(土)は[こちら](#)



《徳川邸行幸》
聖徳記念絵画館蔵

➤ 壁画《岩倉邸行幸》を描いた北蓮蔵の作品



《午の憩》(習作)

早稲田大学會津八一記念博物館蔵

《岩倉邸行幸》
聖徳記念絵画館蔵

北蓮蔵(1876－1949)は岐阜県ゆかりの画家。帝国劇場の舞台背景を手掛けていたことで知られています。壁画制作にあたり、岩倉具視邸で十五号カンヴァスに油彩写生を行ないました。岩倉具視とみられる男性像や、具視夫人・楨子と具綱夫人・増子の丸髻姿、生花が飾られていた氷柱など詳細な油彩写生も残されています。

◆ 詳しく知りたい方 連続レクチャー10月29日(木)は[こちら](#)



後期 11月14日(土)～12月6日(日)

海を渡った洋画家たちが見た明治 ～その画業と交友と～

後期展では、壁画を描いた画家たちの西洋体験に着目し、多彩な作品と相互の交流を紹介します。

➤ 壁画《憲法発布式》を描いた和田英作の作品



《落穂拾い》

ミレー原作・和田英作模写

東京藝術大学蔵

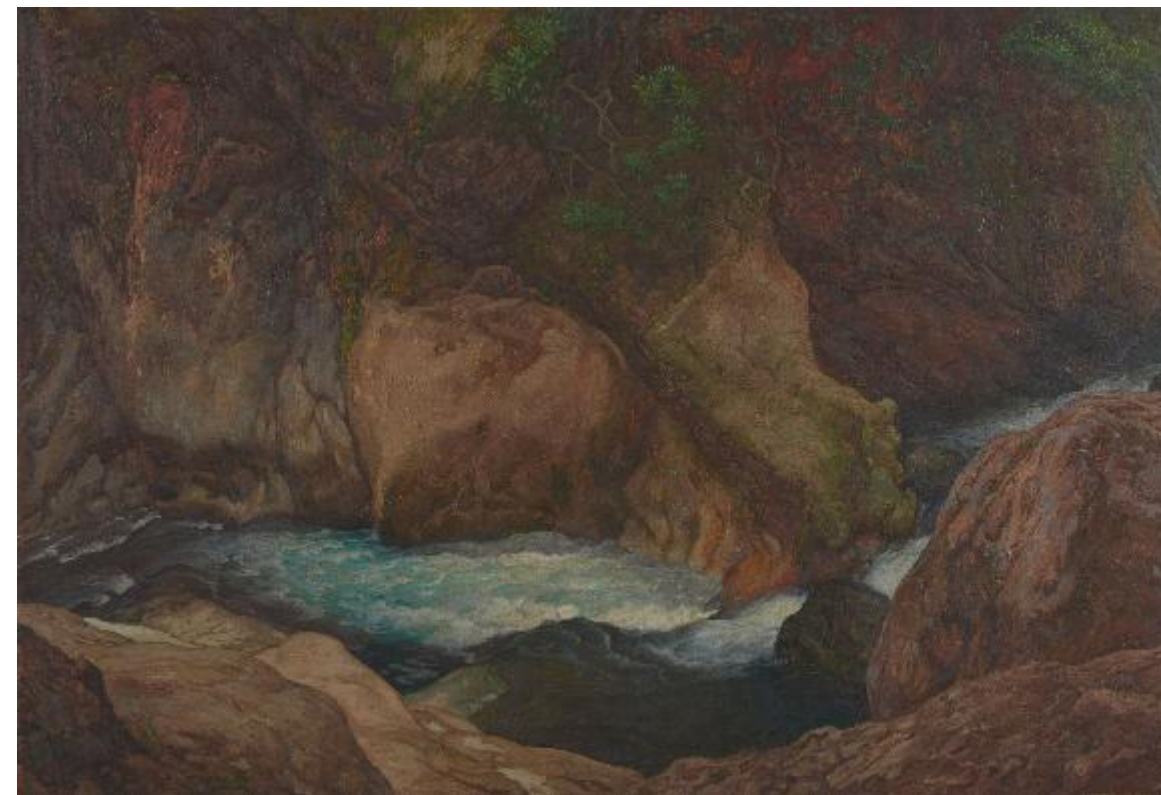
《憲法発布式》
聖徳記念絵画館蔵



和田英作(1874－1959)は鹿児島県ゆかりの画家。
ヨーロッパへ留学中はパリ在留日本人の親睦団体「パンテオン会」へ入会し、言葉や住居といった生活面での支援を受けながら洋画の修行に励んでいました。
和田と同時期にヨーロッパへ留学した日本人の洋画家たちは現地で名画を模写しており、帰国後、展覧会でそれぞれの模写が披露されました。
これらの模写は日本の後進の洋画家たちの教材として重宝されました。

◆ 詳しく知りたい方 連続レクチャー11月19日(木)は[こちら](#)

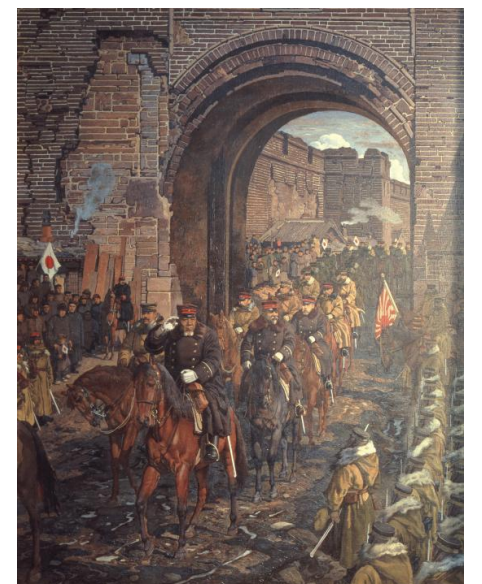
➤ 壁画《日露役奉天戦》を描いた鹿子木孟郎の作品



《大台ヶ原山中》

国(皇居三の丸尚蔵館収蔵)

《日露役奉天戦》
聖徳記念絵画館蔵



鹿子木孟郎(1874－1941)は岡山県ゆかりの画家。
三度にわたってフランスへ留学し、フランス最後の歴史画家と称されるジャン＝ポール・ローランスから薫陶を受けました。
壁画制作にあたって写生した兵士や軍馬、銃や馬具などの詳細なスケッチが残されています。京都深草の第十六師団と奉天(現中華人民共和国瀋陽市)で調査を行なう際には、奉天入城が厳寒の三月であったことからあえて同時期の真冬を選ぶなど、制作への熱意がうかがえます。

◆ 詳しく知りたい方 連続レクチャー11月19日(木)は[こちら](#)

その他の展覧作品

◆前期展

菅楯彦《社人迎春》 東京国立近代美術館蔵
松林桂月《富士に桜》 明治神宮蔵
松岡映丘《明治天皇御尊影》 明治神宮蔵
岡田三郎助《五葉蔦》 泉屋博古館東京蔵

ほか

◆中期展

川崎小虎《こだま》 東京国立近代美術館蔵
中村不折/画・高浜虚子/句筆《道芝や》 東京国立博物館蔵
山本森之助《曲浦》 東京国立近代美術館蔵

ほか

◆後期展

和田英作《思郷》 東京藝術大学蔵
南薫造《少女(半成)》 東京藝術大学蔵
山下新太郎《読書の後》 泉屋博古館東京蔵

ほか

[会場] 〒151-0052

東京都渋谷区代々木神園町1-1

明治神宮ミュージアム

[TEL] 03-3379-5875

[開館時間] 午前10時～午後4時30分まで(入場は30分前まで)

[入館料] 一般：1,000円 高校生以下・団体：900円

※小学生未満無料

※崇敬会会員は無料

[休館日] 木曜日(但し、10月22日は開館)

前期・中期の終了後、展示替休館がございます

